

ルーム複合的なイベント・活動

WILL では 5 つのルームに属する活動だけでなく、各ルームの活動や考えを交差させようとする活動も行っています。各ルームの課題や展望を持ち寄り、各実践の意味付けや ESD の可能性について考えを深める活動です。ESD を推進するためのプラットフォームづくりには何が必要なのか立ち止まって考える時間も大切にしています。

ESD 実践研究集会

2024/12/7,8 @神戸大学鶴甲第 2 キャンパス

ESD 推進ネットひょうご神戸のメンバーである実践者の方々を中心に ESD に関わる様々な問いをざっくばらんに話し合う研究会です。WILL も推進ネットのユース組織として運営のお手伝いと参加をしました。

ESD 実践研究集会では、1 日目に 100 年を振り返る年表作りとポスターセッション、2 日目に未来を考えるワークショップをしました。私はポスターセッションで居場所づくりルームの発表をしました。発表後は多くの方に声をかけていただき、新たな活動の広がり期待が高まりました。多様な実践者との出会いを通じて、ESD の奥深さと可能性を実感し、大きな刺激を受けました。

(コアたん 森唯花)



WILL 内外の多様な参加者が、ご縁のあるフィールドの魅力に触れながら、ESD につながる気づき・学びを深めていきました。

WILL 冬の ESD プログラム

2024/12/21,22 @オークタウン加西



WILL に入ってはじめて参加した宿泊プログラムでした。WILL メンバーではない人も参加できるプログラムで、ほかの参加者の話を聞くことが出来る時間が多く、初対面の相手とどう関わるかを考える機会が沢山ありました。自分とは別の世代の参加者の話を聞くのも勉強になったり、新しく興味をかき立てられたりして面白かったですが、同世代で、自分とは全く違う価値観をもっている参加者と話すことができたのが良い刺激になりました。(ウィカーロ 西村風花)

WILL 研究会

1/26 @神戸大学鶴甲第 2 キャンパス HC センター

WILL 研究会は WILL 全体の実践仮説についてなど、普段の活動中には落ち着いて考えられないようなことを話し合う場です。

WILL のみなさんに協力してもらった調査の結果を発表させていただきました。とても未熟な研究モードでごめんなさい！発表後に聞いてくださった方からの質問に答えながら、「そもそも ESD とは何か？」というところが私たち 5 人の中でもバラバラであることに気がついて、ハッとしました。ESD 演習は ESD に繋がる実践をしようという授業であるわけですが、それは皆でアイデアを出す中で最初にぶちあたった問いでした。発表の機会を得て、あらためて自分の考えを話して批判してもらうことの重要性を実感できました。(とっちたんたん 古田弘美)

RCE ユース会議

2/10,11 @福岡県北九州市

WILL は日本に 8 つある国連大学が認定した ESD 推進拠点である RCE ひょうごこうべのユース組織として活動しており、年に一度ユース会合・実務者会議を行っています。

今回のユース会議には WILL から 4 名のメンバーが参加しました。北九州の公害の歴史や現在の環境問題に対する取り組み等について、フィールドワークを行い考えを深めました。そのことについて動画にまとめ、ESD 普及のための SNS 利用の可能性を全国のユース・実務者の方々と共に議論しました。SNS の使い次第で情報の発信・共有に加えて各団体や活動の魅力を発信できると感じました。来年はより発展した議論ができるよう、ESD の「S」(持続可能性)を意識して WILL ならではの発信を心がけていきたいと思っています。(んぼん 木下栞)



毎年度末に行う春創成合宿では WILL の一年間の活動を振り返りながら来年度以降どんな動き方をしていくか考える合宿です。

春創成合宿

2/14~16 @兵庫県立嬉野台生涯教育センター



兵庫県立嬉野台生涯教育センターで 40 名以上のメンバーが参加して行われました。HAP(ひょうご冒険教育)を体験しました。ESD にとっての WILL の存在意義を振り返り、新企画のアイデアを出し合いました。おおぜいで賑やかに体・口・頭を使ったおかげで、WILL の土壌がより豊かになったと感じられました。ESD とは終わりのなき道なのだと思います。(どりブロ 清水司)

よるカフェ

5/16 @神戸大学鶴甲第 2 キャンパス ABEE

4,5 月に行われた、広く活動の誘い合いをする「WILL フェス」のメイン企画として、WILL で関わりのあるフィールドにちなんだものを、活動のお土産話とともにカフェとして楽しみました！

カフェに来てくれた人達はもちろん、手伝いやアドバイスをくれた人達を始め、よるカフェに関わってくれた全てのみなさんのおかげでこの企画が形になりました。月並みですが、みなさんへの感謝の念でいっぱいです。本当にありがとうございました。多くの人が関わり共に考えながら一つのものができあがる、とても WILL らしい素敵なイベントだったと思います！(御来リン 藤原ゆうな)

